

各種癌細胞に対する混合代替医療物質の増殖抑制効果

○唐崎 裕治¹⁾, 杉 正人²⁾, 吉田 文人²⁾, 宇住 晃治²⁾, 松永 政司²⁾

1) 産業医科大学, 2) NPO 法人遺伝子栄養学研究所

We reported previously that *Phellinus linteus* (Mesimakobu) and nucleic acids exhibited an antigrowth effect on U937 cells. In this study, we prepared two kinds of mixed substances and examined their antiproliferative effects on several kinds of human cancer cells. Synergistic antigrowth effects of both the mixed substances on those cancer cells were observed as compared with the individual effect of each component.

【目的】

我々は4種混合物（メシマコブ，ベニクスノキタケ，核酸 [DNA，RNA混合物]）とイムノタス（メシマコブ，ベニクスノキタケ，霊芝，アガリクスの混合物）を作成し，各種ヒト癌細胞に対する増殖抑制効果を測定し，それぞれの物質単独の場合の癌細胞に対する効果と比較した。

癌細胞としては，ヒトリンパ球系癌細胞 U937，ヒト胃癌細胞 KATOⅢ，ヒト大腸癌細胞 WiDr およびヒト食道癌細胞 YSKE140 を使用した。

【方法】

ヒトリンパ球系癌細胞 U937 は培養液 RPMI1640 + 5% FCS，ヒト胃癌細胞 KATOⅢ は EMEM，50% + RPMI1640，50% + 10% FCS，ヒト大腸癌細胞 WiDr は DMEM + 10% FCS，およびヒト食道癌細胞 YSKE140 は HamF12 + 5% FCS をそれぞれ用いて，37℃で培養する。

細胞増殖抑制活性は試薬で処理した群と非処理群で，顕微鏡下で測定した細胞数の比較により求めた。

【結果と考察】

1. 4種混合物およびイムノタスともに上記した4つの癌細胞に対して強い増殖抑制活性を示した。
2. 4種混合物およびイムノタスを構成するそれぞれの単独成分の各種癌細胞に対する増殖抑制効果も測定したが，各成分を混合する事による相乗効果が観察された。
3. 今後これらの混合物が各種癌細胞にどのようなメカニズム（遺伝子の発現調節あるいは特定蛋白質の発現など）で細胞の増殖抑制を行っているのかを調べて行きたい。